

「憲法9条改憲は許さない」を掲げて!

百里初午まつり、県内外から450人参加



2020初午まつりは、朝から快晴で風もなく気温も緩やかで絶好のまつり日和でした。会場になっている平和公園は、「百里の会」の有志が毎月2度ほど「草刈や樹木の剪定、建物の整備」等を行っています。鳥居なども赤く塗りなおされ、周辺はすっかりきれいで明るくなりました。

■「百里基地反対連絡協議会（百里連協）」の7団体が準備

「茨城県平和委員会」や「茨城平和擁護県民会議」、「農民運動茨城県連絡会」、政党では「社民党茨城県連合」や「日本共産党県委員会」、加えて「百里基地反対同盟」と「百里弁護団」の7団体が構成された「百里基地反対連絡協議会（百里連協）」も、年明けに幹事会を開催し、まつりの段取りや役割分担などを話し合い、共同の取り組みを進めました。「百里連協」でも有志が数日前、百里公園に集合して椅子や机の配置、薪などの切り出しや運搬等を行い、準備に走りまわりました。

■出店や楽器演奏・歌などで盛り上げ!

9時前から様々な団体が出店の準備を行い、「豚汁」や「甘酒」、「乾燥イモ」 「漬物」 「文旦や甘夏」などもありました。百里反対同盟の皆さんと支援者が協力して会場で炊いた「赤飯」が無料で配布され、お腹かも満たされ、また11時ころから「うたごえ」や「ヒューマンファーマーズ」の皆さんが楽器演奏と歌などでまつりを大いに盛り上げてくれました。

■式典は「百里基地反対連絡協議会」参加団体を中心に1時間ほど!

12時から式典が始まりました。地元の百里基地反対同盟から梅沢さん、百里弁護団から今年88歳になる内藤功弁護士に挨拶を頂いた後、「農民運動茨城県連絡会会長」の岡野さんが乾杯の音頭を取りました。その後は「百里連協」構成団体と「新社会党」「日本山妙法寺」からのあいさつがありました。

最後に1月30日における「F4戦闘機の油圧系統事故」への抗議文、「まつりアピール文」を採択して式典が終了しました。

■リレートークと歌の交流!

第2部はリレートークと歌を中心にした交流です。うたごえの大名さんが司会を担いました。訴えには争議も大詰めを迎えた「日本航空の争議団の訴え」がありました(別掲)。また大型バスや追走の車で50人以上も参加してくれた東京平和委員会からはオスプレイ横田基地配備反対・撤去の闘いやタンポポなどの歌、紹介等がありました。最後に、参加者全員で肩を組んで「がんばろう」を歌い、2時半には祭りが終了しました。

挨拶 百里弁護団代表 内藤 功(ないとう いさお)さん

今日は久しぶりによいお天気でもよかったですと思います。この祭りの設営の準備をして頂いたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。ご覧のようにお稲荷さんや鳥居が本当にきれいになっています。地元や県内のみなさんが草刈り、建物の修繕・塗り替え、跡片付け、樹木の剪定など、そういった作業を月に2回もやっている事にも心から感謝したいと思います。そして、県内はもちろん、東京を始め、各県から朝早くからご参集頂いた皆さん、本当にご苦労様です。またありがとうございます。

安倍政権はご存じのように「桜を見る会」など、醜態の連続で追い詰められています。総理の側近の人たちが「この総理は面倒見切れない」と言うところまで、国会内外の力で安倍政権を追い詰めて打倒することが必要だし、力関係ではできると思います。安倍首相は9条改憲の野望を少しも断念していません。署名運動を軸に9条改憲を断念するまで追い詰めていきましょう。お互いに頑張ってください。

ご存知の通り、この百里基地はあの侵略戦争の時に海軍航空隊の飛行基地でした。戦争は1945年8月15日正午、昭和天皇の放送で終了しましたが、その数時間前にこの百里基地から特攻隊が飛び立ち、10代20代の若者が皆、返ることが無かったのです。

戦後は「ここを農地にする」ということで、満州へ行って帰ってきた方々、その方々を含めて開墾に入りました。1955年突如としてここに航空自衛隊の戦闘機基地をつくることになり、これが百里闘争の始まりです。誘導路が公園の目の前にありますが、その部分も含めて200畝の広大な土地がありました。この土地を反対同盟と防衛庁とで所有権の争いをしたのが百里の裁判です。

31年間、「軍事基地のために土地を売る契約は憲法違反で無効だ」と頑固にたたかった裁判です。防衛庁はこの闘いに恐れをなしたのでしょうか。公園の土地は、争いとは別の土地だったのですが、この公園の土地に手を付けられなかったのです。その結果、誘導路の方がこの公園のある土地を避けて、世界の軍事基地に例のない「くの字」に曲がった滑走路になっているのです。この土地にお稲荷さんを据えたのは、お稲荷さんは平和の神様、商売の神様、生活の神様、庶民の神様であるからで、その縁でお祭りしているわけです。

1月27日の衆議院予算委員会で安倍首相は、小野寺五典元防衛大臣の質問に答えて、「憲法9条に照らして自衛隊は違憲だ」という学者の方が圧倒的に多い」と言うことを答弁し、次いで「百里基地では基地から見ると「自衛隊は違憲」という大きな看板があるのは云々」と言いました。だからどうしろと言う訳ではありません。要するに憲法9条を変える口実にこれ(自衛隊は憲法違反の看板)を引き合いに出したのです。

しかし、この「自衛隊は違憲」と言う看板は、別に一党一派が主張しているわけではありません。百里の裁判闘争、百里の闘いで暮らしを守り、土地を守るためには憲法を使うしかないのだからあれで闘ったのです。これは百里裁判の魂(たましい)です。百里裁判の精神があんな大きな看板なのです。

「自衛隊は違憲だ」と言うこの議論によって政府は「集団的自衛権は許さない」という解釈を長年取って来ました。今でも航空自衛隊の戦闘機は外地に出したいのだけれど出せない。それ9条の力なのです。平和を愛する私たちはこれをしっかりと受け止めて、憲法を守りぬき、百里の闘いをさらにみんなに知らせて行くために頑張っていきたいと思っています。がんばりましょう。

挨拶 百里反対同盟代表 梅沢 優(うめざわ まさる)さん

百里基地は首都圏防衛のために作られました。安倍首相は30日の予算委員会の答弁で、私たちの管理している射爆場山に掲げてある「自衛隊は憲法違反」の立て看板を「何とか無くそう」と言うような答弁をしています。安倍首相が狙っているように、憲法に「自衛隊」が書き加えられれば、「公共の福祉」の名のもとに、あの看板は強権的に取り外されます。許すわけにはいきません。

百里基地には昨年末からF4戦闘機の配備が増え、騒音がより激しくなりました。さらに半月前から三沢基地からF2戦闘機も配備されています。そのF2戦闘機が早くも油圧系統の事故を起こしました。上空から潤滑油を撒き散らしながら着陸しました。「緊急事態」と言うことで消防車も駆けつけるなど慌ただしい状況でした。地域住民としては不安を感じている状況です。戦争へつながるような道は何としても止めさせなければなりません。

この初午まつりは半世紀以上も継続しています。今日はこんなにも沢山の皆さんに参加して頂いて、非常に勇気を頂きました。今年はイスと座布団を用意しました。お酒と一緒に飲み物を用意しています。じっくりと交流深め、今後の闘いに備えましょう。

JAL不当解雇争議とは

JALは2010年1月に経営破綻しました。しかし希望退職等の人員削減で目標を大幅達成し、解雇時点では1,586億円の営業利益を上げており、それ以上の解雇は必要なかったにもかかわらず、大みそかに年齢と病歴を理由にパイロット81名と客室乗務員84名を整理解雇しました。解雇された多くはベテランの乗務員で空の安全と職場環境の改善を求めて先頭に立ってきた人たちでした。JALの憲法28条違反(スト権妨害)は最高裁でJALの敗訴が確定しました。にもかかわらず、JAL経営者は解雇争議を解決しようとはしていません。赤坂社長は就任当初から「争議解決」の意欲を表明していましたが、実際に復職した人は「ゼロ」です。最高裁で敗訴したJALの責任の取り方は「争議解決」しかありません。

河野 太郎 防衛大臣 殿
佐川 詳二 百里基地司令 殿

1月30日緊急事態の実態を明らかにし、空対地射撃訓練の中止を求めます

1月30日(木)、三沢基地所属の第3航空隊第3飛行隊F2Bが、百里基地を離陸、36分後にそのうちの1機が油圧系統に不具合を確認したため『緊急事態を宣言』し、9時21分百里基地に緊急着陸したが誘導路上を移動しきれずに停止、消防車が出るなどの緊急体制が敷かれた。「しかし部外への被害や影響はなく、機体の損壊や搭乗者の被害もない」というのが、防衛省の回答です。事故機は『くの字』の誘導路前を牽引されて移動し、滑走路等に漏れた油などを洗い流したため誘導路は閉鎖され、茨城空港の滑走路が使用されました。

しかし8時42分に離陸をしてから、9時18分に不具合を確認するまで36分あります。防衛省の回答が正しいなら、離陸して36分後に不具合を確認したことになります。通常の訓練では、戦闘機は離陸したのち1時間近くの訓練を経て百里基地に帰投することが通常でした。

信頼できる情報によると、「緊急事態」帰投3分前に不具合を確認したのではなく、離陸後海上に到着した頃に不具合が確認され、油を漏らしながら飛行を続けていたということが事実のようです。

飛行中にどうするか判断していたような形跡もあります。緊急事態発生は9時18分ではなくて、さらに前の時間になるとしか考えられません。

しかも百里基地への問合せには、「着陸時に事故が発生した」などと事実と違う回答をしています。

地域住民から連絡を受けた塩川鉄也国会議員事務所が、北関東防衛局を通じて防衛省に問い合わせたところ、上記の事案があったことを認めました。2月3日付けで「百里基地における不時のトラブルについて」と言う文書が、防衛省から塩川国会議員事務所に送られました。しかしこれは塩川事務所に知らせて来ただけで、「報道や国民に知らせることは考えていない」と発言したといえます。現に今に至るまで県や地元自治体への報告やマスコミへの広報等は一切なされていません。

防衛省は現地自治体の小美玉市とはトラブル等の報告について「協定」を結んでいます。油圧系統のトラブルは、一歩間違えれば墜落事故などにつながりかねない重大トラブルです。「緊急事態宣言」もしています。しかし防衛省は「協定」を結んでいる現地自治体にさえも知らせる意志がないことを行動で示しました。事実でないことを回答したことも合わせ、絶対に許すことはできません。

記

1. 今回の「緊急事態宣言」を出した事故の原因究明と今後の対応策を明らかにすること。

「緊急事態宣言」の具体的内容を、県や地元自治体、さらに報道機関にも明らかにすることは防衛省の責任であり、早急に報道関係をはじめ関係する自治体へ情報を伝えること。

2. 百里基地監理部から「模擬空対地射撃訓練を2月17日(月)から2月21日(金)まで百里基地上空で行う」と地元の小美玉市に連絡しているが、今回の「緊急事態」事故への納得できる報告や対策ができるまで、訓練は中止すること。

3. 今月6日、B52と米戦闘機6機、空自45機が共同訓練を日本近海で実施しましたが、百里基地のF4も参加しています。戦略爆撃機との行動は専守防衛とは言えず、侵略性が強くアジアの緊張を高めるだけです。かかる訓練への参加をやめるべきです。

以上申し入れる。

百里基地反対連絡協議会

百里平和公園初午まつり参加者 一同

自衛隊F2戦闘機 油圧系の故障で緊急着陸、 「緊急事態」発令される。 事実の公表をしない 防衛省・百里基地

初午祭りで採択された抗議文は、当日の午後2時半に、百里基地正門に代表30名余が結集し、抗議文を読んで抗議の意思を表明した後、文書は担当に手渡しました。

油圧系統の故障であればいつ重大事故につながるかもしれません。しかもその事実を県にも、協定を結んでいる地元自治体にも、報道機関にも一切知らせていません。こんな秘密主義では、万が一の事故が発生した場合、住民は身を守ることもできません。

参加した人たちの怒りの抗議に、抗議文を受け取った担当者は「答える立場にない」としか回答しませんでした。住民の安全を守るためにも今後も抗議の取り組みを進める必要があります。

抗議文内容▶



県民投票署名2万745筆

クラウドファンディング
好評継続中

いばらき原発県民投票の会は2月11日(火)14時から、青少年会館で対話集会を開催しました。会のメンバーや市民など約100人が参加しました。

多々良哲さん(宮城県女川原発の県民投票)、元山仁士郎さん(沖縄県の辺野古基地建設の賛否を問う県民投票)が県民投票の経験を語り、意見交換しました。

東海原発の再稼働賛否を問う署名は2月10日現在で2万745筆を集約したことが報告されました。1月24日行われた第1次集約が1万余でしたから、17日間で1万筆増えたわけです。目標の署名数は4万8,662筆(有権者総数の2%)です。全県的には現在急速に伸びているとのこと。規定数を集約して署名を知事に提出し、6月の県議会への上程をめざします。クラウドファンディングもネクストゴール目指し継続中です。

Welcome 新人会員ご紹介

新たに迎えた仲間です。(12月~1月)
どうぞよろしくお願いたします。

- 蛭田 成則さん (常陸大宮市)
- 小林 達朗さん (大子)
- 飯田 美弥子さん (日立市)
- 松本 明子さん (常総市)
- 川井 ミツエさん (土浦市)
- 鈴木 宣直さん (笠間市)